

## 賀屋恭安 医案①

一婦人、左足痿え、起つ能はず。既に三たび月を  
闕す。社友 桂枝加朮附湯を与う。久しく服するも  
効なし。予を延きて之を診せしむ。予 其の少腹を  
按ずるに、左に一塊有り。沈没して現せず。乃ち听  
然として曰く、疾 足に在らずして腹に在りと。之  
に大黃牡丹湯を飲ましむるに、塊 日に消え、跛  
稍く揺らぐ。遂に能く行くこと故の如し。